

越市で「E米つくる会」を開いた。地元酒造会社4社の製造責任者と酒造好適米生産者24人が参加



丸山酒造場を見学したE米つくる会

に創業し、地元の人に愛される銘酒「雪中梅」を製造する。昭和40年代の新潟清酒のブームの火付

農業で社会貢献を

奉仕、ボランティアなどを主な活動に据える新潟県村上市の村上ライオンズクラブは、新たに「ファーマーズ支部」を創設し、農業部門での社会貢献を目指している。同ライオンズクラブの佐藤順会長によると、農業支部をつくって

活動するのは全国初という。現在、同支部員は農業法人経営者、役員ら6人。佐藤会長は「構成員が10人程度になれば自主活動をしたい。子ども食堂の食材提供などを実施する他、多彩な活動に取り組みたい」とした。

殺



2月下旬、村上市で開催された日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員の講演会

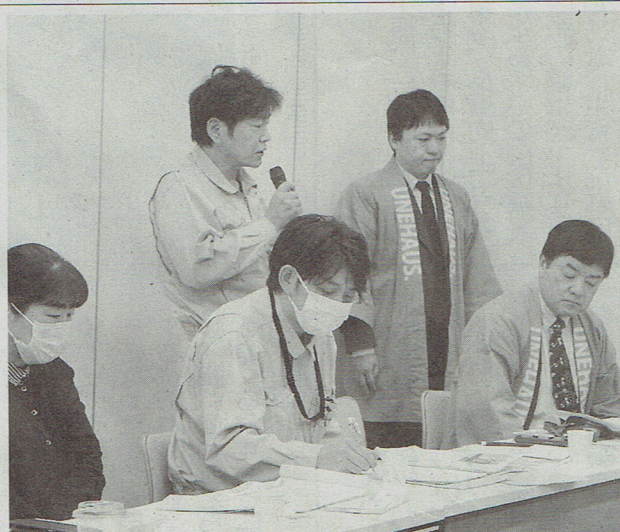
米が清酒となる過程を学んだ。杜氏(とうじ)は「19年産の酒米は高温の影響で硬い米が多かったようだ。もろみとして溶けにくく、酒かすが多くなっている」と、酒造りの難しさを話す。作柄検討会では、上越

温耐性を評価した。地元酒造会社からは、「生産者の皆さんは今後も高温状態が続くことを考慮して、しっかりと土づくりをしてほしい」「タンパク質を抑えようとにも、胴割れ米を防ぐ努力をお願いしたい」

農福連携へ環境づくり

新潟県長岡市で農業を通じた障害者福祉活動に取り組むNPO法人UNEは2月下旬、同市で「農園芸ジョブトレーナー講座」を開いた。県内福祉施設や行政関係者ら22人が参加。障害者と農業者のマッチングを行う人材育成をテーマに、専門家の講演と現場で必要なサポートに理解を深めた。

講演は、三重県で活動する農園芸福祉プランナーの前川良文代表が「農園芸ジョブトレーナーの育成」と題し、障害者就業支援の課題解決策を紹介した。農業現場では受け入れ相談や求める作業内容、福祉側は農作業の知識や働く時間帯などの課題に対し、双方の出会いの場をつくる仕組みや仲介するジョブトレーナ



農福連携を仲介する人材育成の必要性について学んだ講座

1といった中間的支援者の役割が重要なことを指摘した。前川代表は「農業と福祉の両方を知る人材育成と支援組織を設置しなければならぬ」と強調する。県担当者は、新規となる農福連携普及啓発推進事業を説明。「農業と福祉のニーズをつなぐ人材づくりに一歩踏み出し

新潟県新発田市 斎藤農園「花かご」

チュ

催



チュ

みく昔しこ挑戦

なる3回目の「JAあぐ